

Wi-Fiソリューション

クラウドWi-Fi認証

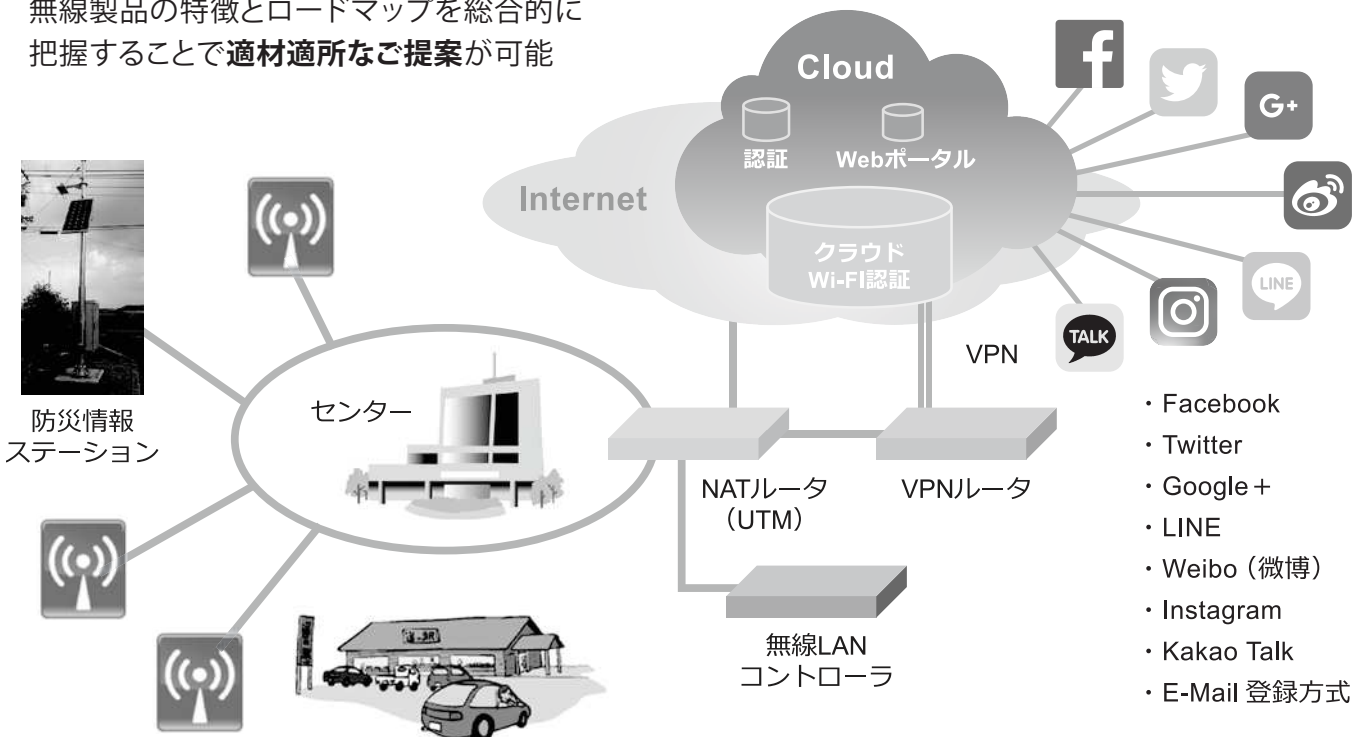
普段利用している“本人認証済み”のソーシャルアカウントで
制約のない、安全で、簡単なFree Wi-Fiを提供します

Open-ID (SNS) 認証方式 利用イメージ



多くの無線LAN機器メーカーとの接続実績 クラウドWi-Fi認証のみの提供も可能

無線製品の特徴とロードマップを総合的に
 把握することで適材適所なご提案が可能



Wi-Fiソリューション

活用事例(インバウンドマーケティング)

1 アクセス画面は利用者の端末設定に合わせて自動翻訳され、インターネット接続まで迷わず誘導。外国人の方にもサクサクご利用いただけます。

オプション費用の追加で他の言語にも対応可能です。

日本語	中文
English	韓国語

3 インターネット接続後の画面は、お店のSNSページへ誘導し、その場でフォローを促したり、店舗紹介や商品宣伝にご活用いただけます。もしくは、お店のオリジナルページをすることも可能です。

オリジナルページの作成は、別料金となります。お問い合わせください。



2 お客様が普段ご利用のSNSやチャットアプリのIDで簡単に接続できます。もちろんメールアドレス登録での接続にも対応しています。(該認証するソーシャルサービスは、Facebook、Twitter、Google+、LINE、ウェイボ-となります。)



4 利用者同士での通信(盗み見)をブロック。どなたでも安心してご利用いただけます。1日の利用回数の制限も可能です。



活用事例

LINEによる店舗への誘客



訪日客へのプロモーション



フォロワー獲得と情報拡散



クーポン配信



認証後(インターネット接続後)、エリアオーナー様が普段運用されている各 SNS 公式アカウントへ誘導

Wi-Fiソリューション

認証対応傾向

Wi-Fi
ソリューション

Wi-Fi
ソリューション

クラウド Wi-Fi 認証サービスでコスト圧縮+セキュリティ強化



- 多言語ナビゲーション
- ソーシャル (SNS) 認証
- 本人確認ステップ有りのメールアドレス登録認証
- 一定期間中の認証回数制限など

公衆無線LAN環境の不正利用の防止が一定程度必要と考えられる場合において、総務省の補助金（「観光・防災Wi-Fiステーション整備事業」、「公衆無線LAN環境整備支援事業」）を活用して、地方公共団体等が公衆無線LAN環境を整備する場合、一定程度の本人性が確認できる認証方式が必要。総務省としては、利用者の利便性及び不正利用防止の観点から、①による認証方式、②及び③の認証方式併用（※1）のいずれかを原則として求める。（※2）

- ①SMS（ショートメッセージ）・電話番号を利用した認証方式
- ②SNSアカウントを利用した認証方式
- ③利用していることの確認を含めたメール認証方式（※3）

（※1）利用者が②又は③の認証方式を選択し、どちらか一方の認証で利用可能となる認証方式。

（※2）上記認証方式を適用しなくてもよいケース

- ・災害時における公衆無線LANの開放時
- ・屋内外問わず、利用者の容姿又は氏名の確認を取ることが可能な場所での使用時
- ・（上記認証方式を満たしていない）既存の公衆無線LANへの追加整備時（平成28年度当初予算にかぎり適用可）

なお、いずれかの方式で実施することが困難と認められる場合には、対面配布方式や②又は③の認証方式の単独実施でも認める場合がある。

（※3）メール認証方式について、主に国内携帯キャリア契約者以外（訪日外国人等）はメール受信ができないため、訪日外国人受入環境整備の目的でWi-Fiを設置する場合は、手続きにかかる最初の数分間はネット接続を可能とする、又はメール受信のみネット接続を可能とするなどの対応が必要。

これまでに補助金を活用して整備してきた団体に対しては、上記認証方式を周知し、変更を推奨していくこととするが、上記認証方式は本事業の交付要件として定めるものであり、これまでに各エリアオーナーが整備してきた公衆無線LAN環境や今後本補助金を使用しないで整備を予定している公衆無線LAN環境について、規制するものではない。

総務省「補助金の交付要件となるWi-Fiの認証方式」

無線LAN接続ポータル機能や無線LAN利用者管理機能（RADIUSサーバー）も、認証ID数の制限無くご利用いただけます。

可用性と拡張性、耐久性に優れるAAA認証サービスです。

登録ユーザID数や接続クライアント数に上限はないため、公衆無線LANサービスなどの事業においてユーザ数ライセンス等のコストを気にせずご利用いただけます。

3rdパーティ製のAPベンダーに順次AP対応



● 新規ご提案

- クラウド型のスモールスタートでご提案
- 認証方式はソーシャル+メールアドレス認証

● 既設エリアのセキュリティレベル強化のご提案

- 同意のみ認証で導入された局
→ソーシャル認証+メールアドレス認証への移行提案
- メールアドレス登録認証で導入された局
→ソーシャル認証のアドオン

● 共通事項として

オンプレ認証→クラウド認証へのマイグレーションをご提案
（オンプレサーバの年間保守費用相当で、クラウドサービスへの移行をご検討いただいております）

認証部分は集約化の方向に進んでいます